

会 議 録

会 議 名	令和6年度第1回東松山市幼児教育振興懇談会			
開 催 日 時	令和6年4月23日（火）	開 会	午後1時30分	
		閉 会	午後2時30分	
開 催 場 所	東松山市役所本庁舎3階 全員協議会室			
会 議 次 第	1 開会 2 あいさつ 3 議題 (1) 令和6年度事業計画（案）及びテーマ（案） (2) その他 4 閉会			
公開・非公開の別	公開	傍聴者数	0人	
非公開の理由 (非公開の場合)				
参加者出欠状況	巢立 佳宏	欠席	中村 昭司	欠席
	小佐野 真紀	出席	竹内 千鶴子	出席
	峯 岩男	出席	眞秀 宏	出席
	二口 法子	出席	狐塚 汐里	出席
	本嶋 郁美	欠席		
事 務 局	教育委員会教育長 吉澤 勲		こども家庭部長 神庭 法子	
	こども家庭部次長 加藤 勝子		保育課 課長 阿部 康裕	
	保育課 副課長 山崎 恵子		学校教育課 副主幹 権田 尚岳	

	顛	末
1 開 会	事務局	
2 あいさつ	東松山市教育委員会教育長 吉澤 勲	
	<p>幼児教育振興懇談会参加者、事務局、自己紹介 座長選出 推薦により峯岩男氏を選任 会議録署名人に眞秀宏氏、狐塚汐里氏を指名</p>	
3 議 題	<p>座 長 議題（１）の令和６年度事業計画（案）及びテーマ（案）について事務局から説明をお願いします。</p> <p>事務局 （説明）</p> <p>座 長 まずは、全体テーマについてですが、令和５年度のテーマが今まさに適期であり、定着するまでは継続していく必要があると、先月の懇談会において、皆様からご意見を頂戴いたしましたので、今年度も引き続き、同じテーマとしております。次に、夏の幼児教育研修会ですが、昨年度の吉永安里先生のご講演が大変好評で、再講演を望む声が多く寄せられたこともあり、今年度も吉永先生に依頼しようということになりました。最後に、幼保小三者連絡会ですが、小学校は高坂小学校と新明小学校、保育園・幼稚園は松山幼稚園とあつぷる幼稚園を事務局に調整していただき、承諾をいただけたということです。以上のような内容で、令和６年度は進めていくということで、よろしいでしょうか。</p> <p>全 員 （異議なし）</p> <p>座 長 では、令和６年度事業計画（案）及びテーマ（案）については、御承認いただいたということで進めさせていただきます。</p> <p>では、せっかくの機会ですので、参加者の皆様からご意見を頂戴したいと存じます。まずは、私からですが、急遽、「なぜ、スタートカリキュラム？」という資料を用意させていただきました。スタートカリキュラムは、直接、学校の先生が関わってくることで、編成の際の参考になればと思</p>	

	<p>い、配付させていただきました。昨年、幼児教育研修会での感想の中に、スタートカリキュラムの必要性を感じたという感想が多く出ておりました。いわゆる、小1ギャップの解消には、学校全体でスタートカリキュラムに取り組んでいかねばならないことであり、今後少しでも教育現場で議論していただけたら有難いと思います。</p> <p>二口氏 昨年まで中学校におりましたので、今年、新1年生を見た時に、そのかわいらしさに感動いたしました。中学生は、しっかり育てられて入学してくるので、幼稚園や保育園での幼児教育は、看過できないものだと思います。</p> <p>眞秀氏 前任校では、同敷地内に幼稚園と小学校がある環境だったのですが、その間には1枚、壁のようなものがあるのを感じていました。連携はあったと思いますが、少し途切れてしまう印象もありましたので、スタートカリキュラムの作成は、重要だと思っております。本日も本校の児童を見てまいりましたが、きちんとチャイムで動くことができておりました。幼稚園、保育園では一番上の学年で卒園してきて、小学校に入学すると小さい子扱いをしてしまうことに少し反省しております。担任も丁寧に伝えておりますが、少しこどもに任せる部分も必要なのかと思っております。</p> <p>座長 幼児教育は、日常の中の経験を学ぶことが中心ですが、小学校教育では、日常とはかけ離れた世界となります。そのギャップにこども達と親達は戸惑いを感じています。その接続が少しでも緩やかになれば、学校は楽しい、学校大好きということになるのではないかと思います。その重要性については、この資料の中に明記されております。「こどもまんなか」という言葉が定着してきましたが、こどもを真ん中に据えて我々が客体となり、こども達をどう支え、育てていくのかということが我々に求められているのではないのでしょうか。</p>
--	--

	<p>竹内氏 私は長年、小学校教諭をしており、高学年を担当することが多かったのですが、6年生は1年生の面倒を見る場面が多く、まさに赤ちゃん扱いをするかの如く接していました。しかし、今、幼稚園でのこども達を見ていると、実際はもっといろいろなことができるので、そこを認めてあげて受け入れることが必要だと思いました。そのためには、年長児がどこまで成長して、どこまでできるのかを小学校の先生方に認知していただいたうえで、小学校で受け入れていただきたいと思いました。参加される先生は、低学年の先生に限らず、中・高学年の先生方にも見ていただきたいと思います。</p> <p>座長 スタートカリキュラムにも書かれていますが、学校全体で、スタートカリキュラムに関わっていくことが重要だと思います。</p> <p>小佐野氏 私は今、私自身の勉強のために大学で学んでいるのですが、先日、オンラインでの授業で、いろいろな地域の先生方とお話しする機会がありました。地域によっては教員不足が深刻で、教員としての経験、柔軟性、観察力等、教員個人の技量による差がある上に、教員不足が重なり、一人ひとりに合った指導が難しいという現状があるようです。</p> <p>眞秀氏 こども達はギャップを感じているとは思いますが、学校とはこのようなところだと、区別がつけられているとも感じます。それは、保育園や幼稚園での指導の賜物と感謝申し上げますが、やはり、一人ひとりに合った個別対応を言われますと人出不足が否めないと思います。どうしても、ある程度の枠の中での指導となっているのが学校の流れです。</p> <p>小佐野氏 年長児になると、1年生への憧れも出てきますので、憧れのままでギャップと感じていないこどももおりますし、逆にギャップを感じるこどもと様々です。</p> <p>狐塚氏 私事ですが、この4月より娘が小学校へ入学しまして、早速、幼稚園ではたくさん遊べたのに学校では遊べない、小学校のどこに何があるのかわからない、言葉遣</p>
--	---

	<p>いの悪いお友達がいるなどと話してくれます。保育園、幼稚園の保育・教育方針は園によって様々です。いろいろな環境下で育ってきたこども達、言葉だけでは理解できないこども、お友達の作り方がわからないこどももいます。小学校で受け入れる際には、視覚で理解しやすくしたり、実際に体験できたりと、授業ではないスタートカリキュラムがあったら、こども達がスムーズにステップアップできるのではないかと思います。</p> <p>権田副主幹 幼保小の接続については、学習指導要領にも設定されております。例えば、体育の授業を行う際に「遊び」を充実させる要素って何なのかを考えた時、「遊び」を通した授業にならない場合もあります。また、スタートカリキュラムでは、生活科がよく取り上げられますが、例えば、何の野菜を育てるか考えるときに、「この野菜を食べてみたいな。」という、これまでの経験からではなく、図鑑を与えて考えさせてしまう場合もあります。学校教育課としては、幼保小の接続の本質的な部分を学校に理解していただけるよう、学校訪問等の場で周知していきたいと感じたところです。</p> <p>座長 今回より、学校教育課の方にも御参加いただいたので、時間はかかるかもしれませんが、今後さらに幼保小の接続への理解が深まることと思います。</p> <p>最後に、議題（2）その他ですが、事務局から何かありますか。</p> <p>事務局 特にありません。</p> <p>座長 なければ、これで全ての議事を終了しましたので、座長を下ろさせていただきます。御協力ありがとうございました。</p>
4 閉 会	事務局

上記会議の顛末を記載した内容について、相違ないことを証します。

令和 6 年 5 月 10 日

署名委員 狐塚 汐里

署名委員 眞秀 宏